

2019年6月6日

株 主 各 位

大阪府中央区道修町三丁目2番6号

上村工業株式会社

代表取締役社長 上 村 寛 也

第91期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、当社第91期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申しあげます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご高覧のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否のご表示をいただき、2019年6月26日（水曜日）午後5時15分までに到着するようご送付いただきたくお願い申しあげます。

敬 具

記

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 日 時 | 2019年6月27日（木曜日）午前10時 |
| 2. 場 所 | 大阪府中央区道修町三丁目2番6号
当社 本社8階講堂 |
| 3. 目的事項
報告事項 | 1. 第91期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第91期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）計算書類報告の件 |
| 決 議 事 項 | |
| 第1号議案 | 剰余金処分 の件 |
| 第2号議案 | 取締役8名選任 の件 |
| 第3号議案 | 退任取締役に対し退職慰労金贈呈 の件 |

以 上

~~~~~  
◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、連結計算書類及び計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.uyemura.co.jp/>）に掲載させていただきます。

(添付書類)

## 事業報告

( 2018年4月1日から  
2019年3月31日まで )

### 1. 企業集団の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及び成果

当連結会計年度における我が国経済は、企業収益が底堅く推移し、雇用情勢や所得環境も緩やかに改善するなど、回復基調が継続しました。海外においては、世界経済の回復が進んだものの、米国の政権運営や通商政策の動向、世界的な貿易摩擦の激化、金融資本市場の急激な変動等、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループの主要市場であるエレクトロニクス市場におきましては、スマートフォンの高機能・高性能化に向けて実装技術が進展したことや、カーエレクトロニクス向けで自動車の電装品の搭載数が飛躍的に増加したことにより、電子部品需要が拡大しました。

このような状況の下、当社グループは、収益力の更なる向上を目指して、高付加価値製品の開発と提案並びに拡販活動に注力するとともに、生産性向上の取り組みを強化してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は519億79百万円（前連結会計年度比8.0%増）、営業利益は82億12百万円（同1.3%減）、経常利益は85億54百万円（同1.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は56億53百万円（同5.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (表面処理用資材事業)

主力のプリント基板用及びパッケージ基板用めっき薬品の売上高は、スマートフォンやカーエレクトロニクス向けが引き続き堅調に推移したことにより増加しました。特にカーエレクトロニクス向けでは、自動車の環境対応や安全性の向上のため、パワーデバイスや車載カメラモジュール用途のめっき薬品の販売が増加し、前連結会計年度を上回りました。

この結果、当連結会計年度の売上高は395億96百万円（前連結会計年度比7.8%増）、セグメント利益は78億41百万円（同2.5%増）となりました。

#### （表面処理用機械事業）

電子部品業界においてハイエンドスマートフォン向けの新たな薄型・高密度配線基板に対応するための新規の設備投資が一巡したことから、売上高は前連結会計年度を下回りました。また、主に中華圏での価格競争による収益の低下や、仕様変更による追加原価の発生等があったため、セグメント損失となりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は53億2百万円（前連結会計年度比10.1%減）、セグメント損失は64百万円（前連結会計年度はセグメント利益5億28百万円）となりました。

#### （めっき加工事業）

タイやインドネシアの自動車産業が回復し、台湾の連結子会社でも車載基板へのめっき加工の受注が堅調に推移したことから、売上高は、前連結会計年度を上回りました。また、利益面でも歩留まりが改善したことから、黒字化しました。

この結果、当連結会計年度の売上高は64億96百万円（前連結会計年度比28.4%増）、セグメント利益は1億19百万円（前連結会計年度はセグメント損失2億36百万円）となりました。

#### （不動産賃貸事業）

新大阪の賃貸用オフィスビルにおいて、オフィスビルの入居率が改善したことから売上高は前連結会計年度を上回りましたが、大規模改修に伴う費用が増加したことにより、セグメント利益は前連結会計年度を下回りました。

この結果、当連結会計年度の売上高は7億40百万円（前連結会計年度比2.4%増）、セグメント利益は3億4百万円（同27.0%減）となりました。

なお、上記のセグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高が含まれております。

## (2) 対処すべき課題

今後の国内経済の見通しは、企業収益や雇用環境の改善を背景に、引き続き緩やかな回復基調が続くものの、個人消費の伸び悩みや、世界情勢の急激な変化による景気の下振れリスクも懸念され、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループの主要市場であるエレクトロニクス市場では、これまで市場を牽引してきたスマートフォンの出荷台数は、最大市場である中国市場で伸び率が鈍化傾向にあります。また、新たな通信規格に対応したハイエンド機種を中心とした端末用途の高付加価値な電子部品の需要が期待されております。また、カーエレクトロニクス分野では、自動車の環境対応や安全性及び利便性の向上のため、先進運転支援システムやパワーデバイスなどの車載部品の搭載数が、さらに増加することが予想されます。

エレクトロニクス市場が要求する技術は日々進歩しており、その要求に応えるためには、技術の継続的な創出と市場が要求するタイミングに合う製品の提供が不可欠となります。当社グループはこの技術革新の流れに乗り遅れることなく、市場に対して、他社に真似のできない技術やノウハウを有した高付加価値製品を提供し続けていかなければなりません。

先端技術分野、エレクトロニクス産業・自動車産業のサポーターティング・インダストリー分野においてめっき技術の重要性はますます高まっております。今後も当社グループはその一翼を担う企業集団として、国内外のお客様にめっき技術に関わるハード、ソフトを一体とした質の高いトータルソリューションを提供し、かつグローバルに事業展開する必要があります。

このような経営課題に基づき、現在次のような取り組みを実施中であります。

- ① 安全・環境対応の徹底
- ② コンプライアンスの徹底
- ③ 研究開発の環境整備と迅速化の推進
- ④ 今後10年、20年を見据えた取り組み
- ⑤ トータルソリューションを提供できるビジネスの確立
- ⑥ グループ会社間・部門間のシナジー効果向上の推進
- ⑦ 将来を見据えた海外の新製造拠点・新販売拠点の探索と検討
- ⑧ ビジネス環境変化への迅速な対応の徹底

### (3) 設備投資の状況

当連結会計年度は、総額20億84百万円の設備投資を実施しました。主要な内容は、当社の中央研究所の研究開発設備の更新等への投資4億14百万円、当社の枚方化成品工場の生産設備更新等への投資1億38百万円、当社の賃貸等不動産の更新への投資1億51百万円、サムハイテックスの排水処理設備更新への投資2億71百万円、サムハイテックスの薬品製造工場建設及び製造設備導入等への投資2億63百万円、上村工業（深圳）有限公司の薬品製造工場拡張及び実験ライン導入等への投資1億11百万円、韓国上村株式会社の実験ライン導入への投資1億8百万円であります。

### (4) 資金調達の状況

当連結会計年度の必要資金は、そのほとんどを自己資金でまかなっておりますが、一部の子会社において借入を行っております。

### (5) 財産及び損益の状況の推移

#### ① 企業集団の財産及び損益の状況の推移

| 区 分                     | 第 88 期                      | 第 89 期                      | 第 90 期                      | 第 91 期<br>(当連結会計年度)         |
|-------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
|                         | 2015年4月1日から<br>2016年3月31日まで | 2016年4月1日から<br>2017年3月31日まで | 2017年4月1日から<br>2018年3月31日まで | 2018年4月1日から<br>2019年3月31日まで |
| 売 上 高(千円)               | 47,568,509                  | 42,081,747                  | 48,120,469                  | 51,979,592                  |
| 経 常 利 益(千円)             | 6,678,800                   | 5,720,304                   | 8,424,010                   | 8,554,178                   |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益(千円) | 4,250,571                   | 5,293,390                   | 5,336,669                   | 5,653,135                   |
| 1株当たり当期純利益(円)           | 466.90                      | 584.82                      | 592.83                      | 627.99                      |
| 総 資 産(千円)               | 67,931,912                  | 69,703,170                  | 73,611,143                  | 77,943,032                  |
| 純 資 産(千円)               | 50,522,979                  | 53,636,514                  | 58,225,865                  | 61,142,889                  |

(注) 1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。なお、自己株式数を控除して算出しております。

2. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度（第90期）の金額については、当該会計基準等を遡って適用した場合の金額となっております。

② 当社の財産及び損益の状況の推移

| 区 分           | 第 88 期                      | 第 89 期                      | 第 90 期                      | 第 91 期<br>(当事業年度)           |
|---------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
|               | 2015年4月1日から<br>2016年3月31日まで | 2016年4月1日から<br>2017年3月31日まで | 2017年4月1日から<br>2018年3月31日まで | 2018年4月1日から<br>2019年3月31日まで |
| 売 上 高(千円)     | 24,406,676                  | 21,855,831                  | 25,143,349                  | 25,463,372                  |
| 経 常 利 益(千円)   | 4,258,239                   | 4,109,442                   | 8,953,729                   | 6,618,069                   |
| 当 期 純 利 益(千円) | 1,764,309                   | 3,099,442                   | 6,187,880                   | 4,597,235                   |
| 1株当たり当期純利益(円) | 193.80                      | 342.43                      | 687.38                      | 510.70                      |
| 総 資 産(千円)     | 39,025,463                  | 39,957,801                  | 44,613,210                  | 49,337,839                  |
| 純 資 産(千円)     | 29,547,075                  | 31,197,719                  | 36,208,988                  | 39,267,678                  |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。なお、自己株式数を控除して算出しております。
2. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、前事業年度(第90期)の金額については、当該会計基準等を遡って適用した場合の金額となっております。

## (6) 重要な子会社の状況

| 名 称                                 | 資 本 金                 | 議決権比率            | 主要な事業内容                              |
|-------------------------------------|-----------------------|------------------|--------------------------------------|
| 株 式 会 社 サ ミ ッ ク ス                   | 千円<br>490,000         | %<br>100.0       | めっき加工                                |
| 台 湾 上 村 股 份 有 限 公 司                 | 千NTドル<br>54,338       | 100.0            | めっき用化学品、表面<br>処理用機械等の製造・<br>販売、めっき加工 |
| ウエムラ・インターナショナル<br>・ コ ー ポ レ ー シ ョ ン | 千米ドル<br>7,000         | 100.0            | めっき用化学品、表面<br>処理用機械等の製造・<br>販売       |
| ウエムラ・インターナショナル<br>・ シ ン ガ ポ ー ル     | 千米ドル<br>186           | 100.0            | めっき用化学品、表面<br>処理用機械等の販売              |
| ウ エ ム ラ ・ マ レ ー シ ア                 | 千マレーシアリングギット<br>3,000 | 100.0            | めっき用化学品の製<br>造・販売                    |
| 上 村 ( 香 港 ) 有 限 公 司                 | 千香港ドル<br>36,040       | 100.0            | めっき用化学品、表面<br>処理用機械等の販売              |
| 上 村 化 学 ( 上 海 ) 有 限 公 司             | 千人民元<br>8,276         | 100.0            | めっき用化学品、表面<br>処理用機械等の販売              |
| サ ム ハ イ テ ッ ク ス                     | 千タイバーツ<br>104,000     | 100.0            | めっき加工、めっき用<br>化学品の製造・販売              |
| 上 村 工 業 ( 深 圳 ) 有 限 公 司             | 千人民元<br>55,224        | 100.0<br>(100.0) | めっき用化学品、表面<br>処理用機械等の製造・<br>販売       |
| 韓 国 上 村 株 式 会 社                     | 千ウォン<br>7,600,000     | 100.0            | めっき用化学品の製<br>造・販売                    |
| ウエムラ・インドネシア                         | 千米ドル<br>10,804.8      | 99.9             | めっき加工                                |

(注) 議決権比率の( )内は、間接所有割合で内数となっております。

## (7) 主要な事業内容 (2019年3月31日現在)

| 区 分           | 主 要 品 目                                   |
|---------------|-------------------------------------------|
| 表面処理用資材事業     | プリント基板用めっき薬品、アルミ磁気ディスク用めっき薬品、工業用化学品、非鉄金属等 |
| 表面処理用機械事業     | プリント基板用めっき機械、アルミ磁気ディスク用めっき機械等             |
| め っ き 加 工 事 業 | プラスチック及びプリント基板等のめっき加工                     |
| 不 動 産 賃 貸 事 業 | オフィスビル及びマンションの賃貸                          |

## (8) 主要な営業所及び工場 (2019年3月31日現在)

| 名 称                     | 所 在 地       |                           |
|-------------------------|-------------|---------------------------|
| 当 社                     | 本 社         | 大 阪 市 中 央 区               |
|                         | 東 京 支 社     | 東 京 都 中 央 区               |
|                         | 名 古 屋 支 店   | 名 古 屋 市 西 区               |
|                         | 枚 方 工 場     | 大 阪 府 枚 方 市               |
|                         | 中 央 研 究 所   | 大 阪 府 枚 方 市               |
| 株式会社サミックス               | 本 社 及 び 工 場 | 大 阪 府 守 口 市               |
|                         | 八 尾 工 場     | 大 阪 府 八 尾 市               |
| 台湾上村股份有限公司              | 本 社 及 び 工 場 | 台 湾 ( 桃 園 縣 )             |
| ウエムラ・インターナショナル・コーポレーション | 本 社         | 米 国 ( カリフォルニア州 )          |
| ウエムラ・インターナショナル・シンガポール   | 本 社         | シ ン ガ ポ ー ル               |
| ウエムラ・マレーシア              | 本 社 及 び 工 場 | マレーシア ( ジョホール州 )          |
| 上村 ( 香港 ) 有限公司          | 本 社         | 中 国 ( 香 港 )               |
| 上村化学 ( 上海 ) 有限公司        | 本 社         | 中 国 ( 上 海 市 )             |
| サムハイテックス                | 本 社 及 び 工 場 | タ イ ( バトウムタニ県 )           |
| 上村工業 ( 深圳 ) 有限公司        | 本 社 及 び 工 場 | 中 国 ( 深 圳 市 )             |
| 韓国上村株式会社                | 本 社 及 び 工 場 | 大 韓 民 国 ( 京 畿 道 華 城 市 )   |
| ウエムラ・インドネシア             | 本 社 及 び 工 場 | イ ン ド ネ シ ア ( 西 ジ ャ ワ 州 ) |

(9) 使用人の状況 (2019年3月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

| 事業区分      | 使用人数   | 前連結会計年度末比増減 |
|-----------|--------|-------------|
| 表面処理用資材事業 | 828名   | 19名減        |
| 表面処理用機械事業 | 130名   | 11名減        |
| めっき加工事業   | 690名   | 9名減         |
| 合計        | 1,648名 | 39名減        |

(注) 使用人数は就業人員数であります。

② 当社の使用人の状況

| 使用人数 | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|-----------|-------|--------|
| 264名 | 5名増       | 40.0歳 | 14.7年  |

(注) 使用人数は就業人員数であり、出向者16名及び嘱託35名、パート従業員21名は含んでおりません。

(10) 主要な借入先の状況 (2019年3月31日現在)

| 借入先         | 借入金残高 |
|-------------|-------|
|             | 百万円   |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 453   |
| 日本生命保険相互会社  | 100   |

## 2. 会社の株式に関する事項

### (1) 株式の状況 (2019年3月31日現在)

- |               |             |
|---------------|-------------|
| ① 発行可能株式総数    | 35,858,000株 |
| ② 発行済株式の総数    | 9,878,040株  |
| ③ 株主数         | 681名        |
| ④ 大株主 (上位10名) |             |

| 株主名                                                                              | 持株数     | 持株比率   |
|----------------------------------------------------------------------------------|---------|--------|
| 浪花殖産株式会社                                                                         | 2,276千株 | 25.28% |
| 日本トラスティ・サービス<br>信託銀行株式会社 (信託口)                                                   | 726千株   | 8.07%  |
| J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A.<br>380578                                       | 584千株   | 6.48%  |
| 株式会社三菱UFJ銀行                                                                      | 449千株   | 4.99%  |
| BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK<br>FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR<br>SUBPORTFOLIO) | 382千株   | 4.24%  |
| GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL                                                      | 346千株   | 3.84%  |
| NOMURA PB NOMINEES TK1 LIMITED                                                   | 314千株   | 3.49%  |
| 上村共栄会                                                                            | 274千株   | 3.05%  |
| BBH FOR FIDELITY PURITAN TR:<br>FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES<br>FUND      | 185千株   | 2.05%  |
| 日本マスタートラスト<br>信託銀行株式会社 (信託口)                                                     | 167千株   | 1.85%  |

(注) 持株比率は自己株式 (876,129株) を控除して計算しております。

### (2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

### 3. 会社役員に関する事項

#### (1) 取締役及び監査役の状況 (2019年3月31日現在)

| 地 位       | 氏 名     | 担当及び重要な兼職の状況                   |
|-----------|---------|--------------------------------|
| 代表取締役社長   | 上 村 寛 也 | 台湾上村股份有限公司董事長                  |
| 専務取締役     | 橋 本 滋 雄 | 営業本部長、開発本部長                    |
| 常務取締役     | 片 山 恵 嗣 | 管理本部担当、情報本部担当                  |
| 取 締 役     | 小 森 和 俊 | 台湾上村股份有限公司總經理                  |
| 取 締 役     | 阪 部 薫 夫 | 管理本部長、情報本部長、<br>総務部長、経営企画部長    |
| 取 締 役     | 島 田 康 史 | 製造本部長、枚方工場長、<br>株式会社サミックス取締役社長 |
| 取 締 役     | 関 谷 勉   | 営業本部副本部長、<br>東京支社長、東京営業部長      |
| 取 締 役     | 大 竹 啓 之 | 営業本部副本部長、<br>大阪本店長、大阪営業部長      |
| 取 締 役     | 高 橋 章 彦 | 高橋章彦税理士事務所 代表                  |
| 取 締 役     | 明 田 佳 樹 | 明田公認会計士事務所 代表                  |
| 常 勤 監 査 役 | 猪 瀬 伸 治 |                                |
| 監 査 役     | 亀 岡 強   | 株式会社サミックス 監査役                  |
| 監 査 役     | 飯 島 亨   | 住友金属鉱山株式会社 非常勤<br>顧問           |

- (注) 1. 取締役高橋章彦氏及び取締役明田佳樹氏は社外取締役であります。
2. 監査役亀岡 強氏及び監査役飯島 亨氏は社外監査役であります。
3. 当社は高橋章彦氏、明田佳樹氏及び亀岡 強氏を東京証券取引所に独立役員として届け出ております。
4. 当事業年度中の取締役の異動は次のとおりであります。
- 2018年6月28日開催の第90期定時株主総会において、大竹啓之氏が新たに取締役に選任され就任いたしました。

5. 当事業年度中の取締役の役職の異動は次のとおりであります。

| 氏名    | 新役職及び担当                    | 旧役職及び担当                           | 異動年月日      |
|-------|----------------------------|-----------------------------------|------------|
| 関谷 勉  | 営業本部副本部長、東京支社長、東京営業部長      | 営業本部副本部長、東京支社長、東京営業部長、大阪本店長       | 2018年4月1日  |
| 片山 恵嗣 | 管理本部担当、情報本部担当              | 管理本部長、情報本部長、経営企画部長、株式会社サミックス取締役社長 | 2018年10月1日 |
| 阪部 薫夫 | 管理本部長、情報本部長、総務部長、経営企画部長    | 管理本部副本部長、情報本部副本部長、総務部長            | 2018年10月1日 |
| 島田 康史 | 製造本部長、枚方工場長、株式会社サミックス取締役社長 | 製造本部長、枚方工場長                       | 2018年10月1日 |

## (2) 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役及び各監査役は、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、各社外取締役及び各監査役がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

### (3) 取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

| 区 分                      | 人 数         | 報 酬 等 の 額              |
|--------------------------|-------------|------------------------|
| 取 締 役<br>(う ち 社 外 取 締 役) | 10名<br>(2名) | 375,192千円<br>(7,079千円) |
| 監 査 役<br>(う ち 社 外 監 査 役) | 3名<br>(2名)  | 18,725千円<br>(8,463千円)  |
| 合 計                      | 13名         | 393,917千円              |

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 取締役への報酬は、2018年6月28日開催の第90期定時株主総会において決議された取締役年額450,000千円以内（うち社外取締役分10,000千円以内）、監査役への報酬は、2007年6月28日開催の第79期定時株主総会において決議された監査役年額50,000千円以内としております。
3. 取締役及び監査役の報酬等の額には、当事業年度に係る役員賞与166,650千円（取締役161,850千円、監査役4,800千円）が含まれております。
4. 取締役及び監査役の報酬等の額には、当事業年度における役員退職慰労引当金の増加額13,430千円（取締役12,630千円、監査役800千円）が含まれております。
5. 社外監査役1名が当事業年度中に当社の子会社から受取った役員報酬等の総額は600千円であります。

#### (4) 社外役員等に関する事項

- ① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係
- 取締役高橋章彦氏は、高橋章彦税理士事務所の代表を兼務しておりますが、当社と高橋章彦税理士事務所との間に特別の関係はありません。
- 取締役明田佳樹氏は、明田公認会計士事務所の代表を兼務しておりますが、当社と明田公認会計士事務所との間に特別の関係はありません。
- 監査役飯島 亨氏は、住友金属鉱山株式会社の非常勤顧問を兼務しております。なお、当社と住友金属鉱山株式会社との間には仕入取引の関係があります。
- ② 当事業年度における主な活動状況
- 取締役高橋章彦氏は、当事業年度に開催された取締役会15回の全てに出席いたしました。経営コンサルタントとして豊富な経験で培った企業経営に関する専門的見地から、取締役会の意思決定の妥当性を確保するための意見の表明等を行いました。
- 取締役明田佳樹氏は、当事業年度に開催された取締役会15回の全てに出席いたしました。公認会計士としての専門的見地と高い見識を有していることから、取締役会の意思決定の適正性を確保するための意見の表明等を行いました。
- 監査役亀岡 強氏は、当事業年度に開催された取締役会15回の全て及び監査役会16回の全てに出席いたしました。コーポレート・ガバナンスについての幅広い知識と見識から、コーポレート・ガバナンスの更なる充実のための意見の表明等を行いました。
- 監査役飯島 亨氏は、当事業年度に開催された取締役会15回の全て及び監査役会16回の全てに出席いたしました。業務監査、会計監査双方において社外監査役としての客観的な立場から公正な意見の表明等を行いました。

#### 4. 会計監査人の状況

##### (1) 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

##### (2) 報酬等の額

|                                     | 支 払 額    |
|-------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 40,800千円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 40,800千円 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

##### (3) 会計監査人の報酬等の額について監査役会が同意をした理由

監査役会は、会計監査人の監査報酬に同意するに当たり、前事業年度の監査実績に対し、当事業年度の監査計画における監査体制、監査内容、監査日数等の監査概要と監査報酬を検討した結果、妥当であるとの結論に達しましたので、会社法第399条第1項の同意を行いました。

##### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社は、会計監査人が会社法第340条第1項に定めている解任事由に該当する状況にあり、かつ改善の見込みがないと判断した場合、もしくは監督官庁から監査業務停止処分を受ける等、当社の監査業務に重大な支障を来たす事態が生じた場合、さらに監査役会が定めた会計監査人の評価基準に則り評価した結果、会計監査人を再任することが適切でないと判断した場合には、監査役会の請求により取締役会が会計監査人の解任又は不再任に関する議案を株主総会に付議いたします。

##### (5) 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人は、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会計監査人がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

## 5. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

当社は、2006年5月11日開催の取締役会において、「内部統制システム構築の基本方針」を決議いたしました。2015年5月1日に施行された会社法及び会社法施行規則の改正に対応するため、2015年5月14日開催の取締役会において、新たに「内部統制システム構築の基本方針」を、次のとおり決議いたしました。

### ＜業務の適正を確保するための体制＞

#### (1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 当社は、上村グループのコンプライアンス（CSR）推進についてのトップステートメントを掲げるとともに、当社並びにグループ会社の取締役及び使用人を含めた上村グループ行動憲章及び上村グループ行動指針を定め、CSR推進室を設けて、法令、定款及び社内規程の遵守・徹底を図る。
- ② 取締役会については取締役会規程を定め、月1回これを開催することを原則とし、その他必要に応じて随時開催して取締役間の意思疎通を図るとともに、法令に従い相互に業務執行の監督を行う。
- ③ 当社は、監査役設置会社であり、取締役の職務執行については法令並びに監査役会の定める監査の方針及び分担に従い、各監査役が監査を行う。

#### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、取締役会規程及び文書管理規程に基づき記録し、保存・管理する。記録は文書の保管及び保存要領に定められた期間、その保存媒体に応じて適切かつ検索性の高い状態で保存・管理し、必要に応じて閲覧可能な状態を維持する。

#### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① コンプライアンス、災害、事業、情報セキュリティ等に係る個々のリスクについては、CSR推進室内にそれぞれの分科会を創設し、リスク管理体制を構築する。
- ② 危機管理対策規程を制定し、不測の事態が発生した場合には、代表取締役社長又はその指名する者を本部長とする対策本部を設置して迅速な対応を行い、損害の拡大を防止し、これを最小限に止める体制を整える。

**(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

- ① 取締役会で決議すべき重要事項を取締役会規程で定め、当該規程に従い取締役会にて決定する。その他取締役会へ報告すべき重要事項については、職務権限規程（基本権限一覧表）に定める。
- ② 取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程・職務権限規程において、それぞれの責任者及びその責任と執行手続の詳細について定める。
- ③ 取締役会で定めた中期経営計画及び予算並びに全社的な目標については、取締役、本部長、工場長及び中央研究所長が事業戦略、業務進捗の定期的なレビューと改善策を検討し、取締役会に報告する。

**(5) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制**

- ① 当社は、CSRに基づく企業活動をトップステートメントとして発信するとともに、当社並びにグループ会社の取締役及び使用人を含めた上村グループ行動憲章及び上村グループ行動指針を定め、法令、定款及び社内規程の遵守・徹底を図る。
- ② 担当役員を長とするCSR推進室を設置して、コンプライアンス等のリスク管理体制を整備し、問題点の把握に努め、CSRの維持・向上を図る。
- ③ CSR推進室内に監査委員会を設け、内部監査室と協力して、CSR推進体制の運営状況を監査する。
- ④ 法令違反その他のCSR推進に関する疑義のある行為について、使用人が直接情報提供を行う手段として、法務部を窓口とする内部通報制度（ホットライン制度）を設置・運用する。

**(6) 当社の子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制**

- ① **当社の子会社の取締役の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制**

当社は、関係会社管理規程を定め、取締役に対しては、職務執行の報告を遅滞なく行うよう定める。また、必要に応じて、取締役会において報告することを求める。

- ② **当社の子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制**  
当社及び子会社すべての行動指針として上村グループ行動憲章及び上村グループ行動指針を定め、CSR推進体制を整備する。リスク管理規程の下、当社CSR推進室は、この体制をグループ会社へ横断的に展開し、リスク管理体制を構築する。
- ③ **当社の子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**  
子会社の取締役の業務執行に関し、組織規程・職務権限規程・職務分掌規程等を整備し、それぞれの責任者及びその責任者と執行手続きの詳細について定める。
- ④ **当社の子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制**
- (イ) 当社は、CSRに基づく企業活動をトップステートメントとして発信するとともに、当社並びにグループ会社の取締役及び使用人を含めた上村グループ行動憲章及び上村グループ行動指針を定め、法令、定款及び社内規程の遵守・徹底を図る。
- (ロ) 当社は、関係会社管理規程を定め、各グループ会社の運営管理を行うとともに、内部監査を実施する。
- (7) **監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項**  
監査役が必要とした場合、監査役の職務を補助する使用人を置く。
- (8) **前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項**  
当該使用人の異動・評価については、監査役会の同意を得ることとする。
- (9) **監査役の上記(7)の使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項**  
当該使用人が、他部署の使用人を兼務する場合は、原則として監査役の職務の補助を優先することとする。
- (10) **次に掲げる体制その他監査役への報告に関する体制**
- ① **取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制**  
取締役は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合は、法令に従い直ちにこれを監査役又は監査役会に報告しなければならない。監査役は、いつでも必要に応じて取締役及び当該使用人に対して報告を求める。

- ② 当社の子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者（以下「情報を入手した者」という）が監査役に報告をするための体制

各子会社の取締役又は監査役は、各子会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合は、直ちにこれを当社の監査役又は監査役会に報告しなければならない。当社の監査役は、いつでも必要に応じて、各子会社の情報を入手した者に報告を求める。

- (11) 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社は、前号の監査役に報告した内容を守秘し、報告した者に対して不利益な取扱いを行わない。

- (12) 監査役職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役が、その職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還等の請求をした時は、当該監査役職務の執行に必要なと会社が証明した場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。

- (13) その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 監査役は、取締役会に出席して必要に応じて意見を述べ、常務会その他の重要な会議にも出席して重要事項の審議ないし報告状況を直接認識できる体制とする。
- ② 代表取締役は、監査役と定期的に会合を持ち、会社に対処すべき課題、監査役監査の環境整備状況、監査上の重要課題等について意見交換を行う。

#### ※ 反社会的勢力排除への取り組み

当社では、反社会的勢力排除への取り組みについては、上村グループ行動指針において「反社会的勢力との一切の関係を遮断する。」ことを制定し、上村グループ全役員に周知徹底しております。

#### ※ 財務報告に係る内部統制への対応

当社では、2008年4月1日から施行された「内部統制報告制度」に対応すべく、別途「財務報告の基本方針」を決議し、財務報告の適正性の確保に努めております。

### <業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要>

(1)(2)(3)の体制について、記載内容のとおり、運用しております。

なお、(3)について、現在設置されている分科会は、①ハラスメント対策委員会、②内部統制管理委員会、③BCP委員会です。

(4)(5)の体制について、記載内容のとおり、運用しております。

(6)の体制について、各グループ会社の内部監査規程やリスク管理規程、その他社内規程に則って運用しております。また、第89期より各グループ会社において、独自で内部監査を実施し、その結果報告を受けております。

(7)(8)(9)の体制について、監査役から補助使用人を置く要求がありませんので、置いておりません。

(10)(11)(12)(13)の体制について、記載内容のとおり、運用しております。

# 連結貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目                | 金 額               |
|-----------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>      |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>54,402,496</b> | <b>流動負債</b>        | <b>12,778,309</b> |
| 現金及び預金          | 34,029,803        | 支払手形及び買掛金          | 2,866,067         |
| 受取手形及び売掛金       | 13,694,398        | 電子記録債務             | 4,057,985         |
| 有価証券            | 37,285            | 短期借入金              | 511,503           |
| 商品及び製品          | 2,197,452         | 一年内返済予定長期借入金       | 41,813            |
| 仕掛品             | 2,004,378         | リース債務              | 54,715            |
| 原材料及び貯蔵品        | 1,395,019         | 未払法人税等             | 2,687,876         |
| その他             | 1,134,913         | 賞与引当金              | 152,879           |
| 貸倒引当金           | △90,756           | 役員賞与引当金            | 166,650           |
| <b>固定資産</b>     | <b>23,540,536</b> | その他                | 2,238,815         |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>18,672,326</b> | <b>固定負債</b>        | <b>4,021,833</b>  |
| 建物及び構築物         | 8,349,819         | リース債務              | 93,333            |
| 機械装置及び運搬具       | 2,406,580         | 退職給付に係る負債          | 720,210           |
| 土地              | 4,691,456         | 役員退職慰労引当金          | 205,525           |
| リース資産           | 113,803           | 繰延税金負債             | 2,131,537         |
| 建設仮勘定           | 1,874,685         | 長期預り保証金            | 608,068           |
| その他             | 1,235,980         | その他                | 263,158           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>269,301</b>    | <b>負債合計</b>        | <b>16,800,142</b> |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>4,598,908</b>  | <b>(純資産の部)</b>     |                   |
| 投資有価証券          | 3,768,139         | <b>株主資本</b>        | <b>57,662,299</b> |
| 退職給付に係る資産       | 83,983            | 資本金                | 1,336,936         |
| 繰延税金資産          | 268,048           | 資本剰余金              | 1,269,750         |
| その他             | 548,250           | 利益剰余金              | 58,382,870        |
| 貸倒引当金           | △69,513           | 自己株式               | △3,327,258        |
| <b>資産合計</b>     | <b>77,943,032</b> | <b>その他の包括利益累計額</b> | <b>3,480,590</b>  |
|                 |                   | その他有価証券評価差額金       | 717,304           |
|                 |                   | 為替換算調整勘定           | 2,780,323         |
|                 |                   | 退職給付に係る調整累計額       | △17,036           |
|                 |                   | <b>純資産合計</b>       | <b>61,142,889</b> |
|                 |                   | <b>負債・純資産合計</b>    | <b>77,943,032</b> |

# 連結損益計算書

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                           | 金 額       |            |
|-------------------------------|-----------|------------|
| 売 上 高                         |           | 51,979,592 |
| 売 上 原 価                       |           | 33,572,920 |
| 売 上 総 利 益                     |           | 18,406,672 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費           |           | 10,194,430 |
| 営 業 利 益                       |           | 8,212,241  |
| 営 業 外 収 益                     |           |            |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金             | 184,817   |            |
| そ の 他                         | 325,221   | 510,038    |
| 営 業 外 費 用                     |           |            |
| 支 払 利 息                       | 20,010    |            |
| 為 替 差 損                       | 107,407   |            |
| そ の 他                         | 40,683    | 168,102    |
| 経 常 利 益                       |           | 8,554,178  |
| 特 別 利 益                       |           |            |
| 固 定 資 産 売 却 益                 | 23,051    | 23,051     |
| 特 別 損 失                       |           |            |
| 固 定 資 産 除 売 却 損               | 27,787    |            |
| 減 損 損 失                       | 34,867    |            |
| 事 業 撤 退 損                     | 297,901   | 360,556    |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益         |           | 8,216,673  |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税         | 2,696,702 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額                 | △133,163  | 2,563,538  |
| 当 期 純 利 益                     |           | 5,653,135  |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益 |           | 5,653,135  |

## 連結株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

(単位：千円)

|                               | 株 主 資 本   |           |             |             |             |
|-------------------------------|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|
|                               | 資 本 金     | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金   | 自 己 株 式     | 株 主 資 本 合 計 |
| 2018年4月1日残高                   | 1,336,936 | 1,269,750 | 54,080,028  | △ 3,326,952 | 53,359,762  |
| 連結会計年度中の変動額                   |           |           |             |             |             |
| 剰余金の配当                        |           |           | △ 1,350,292 |             | △ 1,350,292 |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益           |           |           | 5,653,135   |             | 5,653,135   |
| 自己株式の取得                       |           |           |             | △ 306       | △ 306       |
| 株主資本以外の項目の連結会<br>計年度中の変動額(純額) |           |           |             |             |             |
| 連結会計年度中<br>の変動額合計             | -         | -         | 4,302,842   | △ 306       | 4,302,536   |
| 2019年3月31日残高                  | 1,336,936 | 1,269,750 | 58,382,870  | △ 3,327,258 | 57,662,299  |

|                               | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 |                  |                  |                                 | 純 資 産 合 計   |
|-------------------------------|-----------------------|------------------|------------------|---------------------------------|-------------|
|                               | その他有価証券<br>評価差額金      | 為替換<br>算調整勘<br>定 | 退職給付に係る<br>調整累計額 | そ の 他 の 包<br>括 利 益 累 計<br>額 合 計 |             |
| 2018年4月1日残高                   | 917,857               | 3,957,658        | △ 9,412          | 4,866,103                       | 58,225,865  |
| 連結会計年度中の変動額                   |                       |                  |                  |                                 |             |
| 剰余金の配当                        |                       |                  |                  |                                 | △ 1,350,292 |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益           |                       |                  |                  |                                 | 5,653,135   |
| 自己株式の取得                       |                       |                  |                  |                                 | △ 306       |
| 株主資本以外の項目の連結会<br>計年度中の変動額(純額) | △ 200,553             | △ 1,177,334      | △ 7,624          | △ 1,385,512                     | △ 1,385,512 |
| 連結会計年度中<br>の変動額合計             | △ 200,553             | △ 1,177,334      | △ 7,624          | △ 1,385,512                     | 2,917,023   |
| 2019年3月31日残高                  | 717,304               | 2,780,323        | △ 17,036         | 3,480,590                       | 61,142,889  |

## (連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び連結子会社の名称

連結子会社の数 11社

連結子会社の名称

株式会社サミックス、台湾上村股份有限公司、ウエムラ・インターナショナル・コーポレーション、ウエムラ・インターナショナル・シンガポール、ウエムラ・マレーシア、上村（香港）有限公司、上村化学（上海）有限公司、サムハイテックス、上村工業（深圳）有限公司、韓国上村株式会社、ウエムラ・インドネシア

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用会社はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、在外子会社の事業年度の末日は12月31日であります。連結計算書類の作成にあたっては同日現在の計算書類を使用し、連結会計年度末日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

##### (イ) 売買目的有価証券

時価法（売却原価は移動平均法により算定）

##### (ロ) その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

(イ) 商品

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(ロ) 製品及び仕掛品

めっき用化学品

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

表面処理用機械

主として個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(ハ) 原材料及び貯蔵品

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法によっております。在外子会社は主として定額法によっております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10～50年

機械装置及び運搬具 2～15年

② 無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づいております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

当社及び国内連結子会社は、従業員に対する賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

③ 役員賞与引当金

当社及び国内連結子会社は、役員賞与の支給に備えるため、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。

④ 役員退職慰労引当金

当社及び国内連結子会社は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給見積額を計上しております。

(4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項

① 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を計上し、年金資産が退職給付債務を上回っている場合には、当該差額を投資その他の資産の「退職給付に係る資産」に計上しております。

数理計算上の差異は、主として各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

- ② 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建金銭債権債務は、連結会計年度の末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、事業年度末の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。
- ③ 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

**(表示方法の変更に関する注記)**

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

**(連結貸借対照表に関する注記)**

**1. 担保に供している資産及び担保に係る債務**

(1) 担保に供している資産

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 建物及び構築物 | 1,883,659千円        |
| 土地      | 47,200千円           |
| 計       | <u>1,930,859千円</u> |

(2) 担保に係る債務

|       |                  |
|-------|------------------|
| 短期借入金 | 400,000千円        |
| 計     | <u>400,000千円</u> |

**2. 有形固定資産の減価償却累計額** 24,826,168千円

**3. 連結会計年度末日満期手形等**

連結会計年度末日満期手形等の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形等が連結会計年度末残高に含まれております。

|        |           |
|--------|-----------|
| 受取手形   | 437,817千円 |
| 電子記録債務 | 285,834千円 |

(連結損益計算書に関する注記)

1. 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

| 場 所           | 用 途   | 種 類                   |
|---------------|-------|-----------------------|
| インドネシア（西ジャワ州） | 事業用資産 | 建物及び構築物、機械装置及び運搬具、その他 |
| 台湾（桃園縣）       | 事業用資産 | 建物及び構築物、土地            |

当社グループは、原則として、事業用資産においては概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位にて資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなる資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失34,867千円として特別損失に計上しました。その内訳は、インドネシア（西ジャワ州）21,296（内、建物及び構築物1,580、機械装置及び運搬具13,973、その他5,743）千円、台湾（桃園縣）13,571（内、建物及び構築物△2,689、土地16,260）千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しております。正味売却価額については、不動産鑑定価額に基づき算定し、土地・建物以外の資産については処分可能性を考慮し、実質的な価値がないと判断したため備忘価額をもって評価しております。

## 2. 事業撤退損

事業撤退損は、当社連結子会社である株式会社サミックスのめっき加工事業からの撤退に伴う損失であり、内訳は下記のとおりであります。

|             |                  |
|-------------|------------------|
| 減損損失（注）     | 122,929千円        |
| 土壌汚染対策費用    | 114,120千円        |
| 特別退職金       | 19,000千円         |
| その他事業撤退関連費用 | 41,852千円         |
| 計           | <u>297,901千円</u> |

（注）当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

| 場 所    | 用 途   | 種 類                            |
|--------|-------|--------------------------------|
| 大阪府八尾市 | 事業用資産 | 建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、リース資産、その他 |

当社グループは、原則として、事業用資産においては概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位にて資産のグルーピングを行っております。

2018年9月10日開催の取締役会において、連結子会社である株式会社サミックスのめっき加工事業を2019年3月31日に廃止することを決定し、同社の八尾工場を売却する意思決定を行ったことにより、結果として当該資産の回収可能価額を著しく低下させる変化が生じているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額122,929千円を事業撤退損に含めて特別損失に計上しました。その内訳は、建物及び構築物28,192千円、機械装置及び運搬具10,140千円、土地78,691千円、リース資産4,424千円、その他1,479千円であります。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式の総数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 9,878,040株    | 一株           | 一株           | 9,878,040株   |

2. 自己株式の数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 876,091株      | 38株          | 一株           | 876,129株     |

(注) 自己株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加38株であります。

3. 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

2018年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議されました。

- ・ 配当金の総額 1,350,292千円
- ・ 1株当たり配当額 150円
- ・ 基準日 2018年3月31日
- ・ 効力発生日 2018年6月29日

4. 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2019年6月27日開催予定の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

- ・ 配当金の総額 1,350,286千円
- ・ 配当金の原資 利益剰余金
- ・ 1株当たり配当額 150円
- ・ 基準日 2019年3月31日
- ・ 効力発生日 2019年6月28日

## (金融商品に関する注記)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については預金等に限定し、また、資金調達については、銀行借入による方針であります。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程及び販売管理規程に沿ってリスク低減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価や発行体の財政状況を把握しております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資を目的とした資金調達であります。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. を参照）。

|                  | 連結貸借対照表計上額<br>(千円) | 時価 (千円)    | 差額 (千円) |
|------------------|--------------------|------------|---------|
| (1) 現金及び預金       | 34,029,803         | 34,029,803 | —       |
| (2) 受取手形及び売掛金    | 13,694,398         | 13,694,398 | —       |
| (3) 有価証券及び投資有価証券 | 3,794,892          | 3,794,892  | —       |
| 資産計              | 51,519,094         | 51,519,094 | —       |
| (1) 支払手形及び買掛金    | 2,866,067          | 2,866,067  | —       |
| (2) 電子記録債務       | 4,057,985          | 4,057,985  | —       |
| (3) 短期借入金        | 511,503            | 511,503    | —       |
| (4) 未払法人税等       | 2,687,876          | 2,687,876  | —       |
| (5) 長期借入金(*)     | 41,813             | 41,855     | 41      |
| (6) 長期預り保証金      | 608,068            | 558,518    | △49,550 |
| 負債計              | 10,773,316         | 10,723,808 | △49,508 |

(\*) 「(5) 長期借入金」には、一年内返済予定長期借入金が含まれております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金  
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (3) 有価証券及び投資有価証券  
これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

負 債

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金、(4) 未払法人税等  
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (5) 長期借入金  
長期借入金の時価については、元利金の合計額を、その返済予定に基づき、同様の新規借入を行った場合に想定される利率等で割り引いた現在価値により算定しております。
- (6) 長期預り保証金  
長期預り保証金の時価については、合理的に見積った返済予定時期に基づき、リスクフリーレートに信用リスクを加味した利率等で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分    | 連結貸借対照表計上額 (千円) |
|-------|-----------------|
| 非上場株式 | 10,533          |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(賃貸等不動産に関する注記)

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社グループは、賃貸用のオフィスビル及び賃貸用のマンション（土地を含む）を有しております。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は304,959千円（賃貸収益は売上高に740,105千円、賃貸費用は売上原価に435,145千円を計上）であります。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

| 連結貸借対照表計上額 (千円) |            |            | 当連結会計年度末の時価 (千円) |
|-----------------|------------|------------|------------------|
| 当連結会計年度期首残高     | 当連結会計年度増減額 | 当連結会計年度末残高 |                  |
| 2,463,954       | 484,954    | 2,948,909  | 9,935,741        |

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による調査報告書に基づく金額であります。
- ただし、直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。

(1株当たり情報に関する注記)

|            |           |
|------------|-----------|
| 1株当たり純資産額  | 6,792円21銭 |
| 1株当たり当期純利益 | 627円99銭   |

# 貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目             | 金 額               |
|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>   |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>29,954,320</b> | <b>流動負債</b>     | <b>9,184,374</b>  |
| 現金及び預金          | 19,282,533        | 支払手形            | 187,755           |
| 受取手形            | 3,572,277         | 電子記録債務          | 4,043,459         |
| 売掛金             | 3,439,406         | 買掛金             | 1,542,163         |
| 商品及び製品          | 539,156           | 短期借入金           | 400,000           |
| 仕掛品             | 1,513,427         | リース債務           | 41,435            |
| 原材料及び貯蔵品        | 259,462           | 未払金             | 222,898           |
| 前払費用            | 111,571           | 未払費用            | 151,829           |
| その他             | 1,237,985         | 未払法人税等          | 2,067,623         |
| 貸倒引当金           | △1,500            | 前受金             | 117,216           |
| <b>固定資産</b>     | <b>19,383,518</b> | 預り金             | 72,594            |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>9,744,702</b>  | 賞与引当金           | 152,879           |
| 建物              | 4,632,997         | 役員賞与引当金         | 166,650           |
| 構築物             | 47,845            | その他             | 17,867            |
| 機械装置            | 507,997           | <b>固定負債</b>     | <b>885,786</b>    |
| 車両運搬具           | 20,536            | リース債務           | 78,488            |
| 工具器具備品          | 669,244           | 役員退職慰労引当金       | 199,775           |
| 土地              | 2,641,984         | 繰延税金負債          | 800               |
| リース資産           | 113,803           | その他             | 606,722           |
| 建設仮勘定           | 1,110,291         | <b>負債合計</b>     | <b>10,070,160</b> |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>181,262</b>    | <b>(純資産の部)</b>  |                   |
| ソフトウェア          | 174,372           | <b>株主資本</b>     | <b>38,563,881</b> |
| その他             | 6,889             | 資本金             | 1,336,936         |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>9,457,554</b>  | 資本剰余金           | 1,644,666         |
| 投資有価証券          | 3,723,761         | 資本準備金           | 1,644,666         |
| 関係会社株式          | 5,084,827         | <b>利益剰余金</b>    | <b>38,909,536</b> |
| 関係会社出資金         | 120,655           | 利益準備金           | 334,234           |
| 長期貸付金           | 105,970           | その他利益剰余金        | 38,575,302        |
| その他             | 449,339           | 圧縮記帳積立金         | 4,304             |
| 貸倒引当金           | △27,000           | 配当平均積立金         | 810,000           |
| <b>資産合計</b>     | <b>49,337,839</b> | 別途積立金           | 32,315,000        |
|                 |                   | 繰越利益剰余金         | 5,445,998         |
|                 |                   | <b>自己株式</b>     | <b>△3,327,258</b> |
|                 |                   | 評価・換算差額等        | 703,797           |
|                 |                   | その他有価証券評価差額金    | 703,797           |
|                 |                   | <b>純資産合計</b>    | <b>39,267,678</b> |
|                 |                   | <b>負債・純資産合計</b> | <b>49,337,839</b> |

# 損 益 計 算 書

（2018年4月1日から  
2019年3月31日まで）

（単位：千円）

| 科 目                   | 金         | 額          |
|-----------------------|-----------|------------|
| 売 上 高                 |           | 25,463,372 |
| 売 上 原 価               |           | 17,562,843 |
| 売 上 総 利 益             |           | 7,900,528  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |           | 4,558,363  |
| 営 業 利 益               |           | 3,342,164  |
| 営 業 外 収 益             |           |            |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金     | 3,251,177 |            |
| 為 替 差 益               | 13,223    |            |
| そ の 他                 | 21,338    | 3,285,739  |
| 営 業 外 費 用             |           |            |
| 支 払 利 息               | 2,951     |            |
| そ の 他                 | 6,882     | 9,834      |
| 経 常 利 益               |           | 6,618,069  |
| 特 別 損 失               |           |            |
| 関 係 会 社 貸 倒 損 失       | 220,830   |            |
| 固 定 資 産 除 売 却 損       | 10,559    |            |
| 関 係 会 社 株 式 評 価 損     | 330,360   | 561,749    |
| 税 引 前 当 期 純 利 益       |           | 6,056,319  |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 1,529,216 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額         | △70,132   | 1,459,084  |
| 当 期 純 利 益             |           | 4,597,235  |

# 株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本   |           |           |           |          |         |            |            |            |            |            | 自己株式 | 株主資本<br>合計 |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|---------|------------|------------|------------|------------|------------|------|------------|
|                         | 資 本 金     |           |           | 利 益 剰 余 金 |          |         |            |            |            |            |            |      |            |
|                         | 資本準備金     | 資本剰余金計    |           | 利益準備金     | その他利益剰余金 |         |            |            |            | 利益剰余金計     |            |      |            |
| 資本剰余金                   |           | 資本剰余金     | 圧縮記帳積立金   |           | 配当平均積立金  | 別途積立金   | 繰越利益剰余金    |            |            |            |            |      |            |
| 2018年4月1日高              | 1,336,936 | 1,644,666 | 1,644,666 | 334,234   | 4,304    | 810,000 | 28,215,000 | 6,299,055  | 35,662,593 | △3,326,952 | 35,317,244 |      |            |
| 事業年度中の変動額               |           |           |           |           |          |         |            |            |            |            |            |      |            |
| 別途積立金の積立                |           |           |           |           |          |         | 4,100,000  | △4,100,000 | -          |            | -          |      |            |
| 剰余金の配当                  |           |           |           |           |          |         |            | △1,350,292 | △1,350,292 |            | △1,350,292 |      |            |
| 当期純利益                   |           |           |           |           |          |         |            | 4,597,235  | 4,597,235  |            | 4,597,235  |      |            |
| 自己株式の取得                 |           |           |           |           |          |         |            |            |            | △306       | △306       |      |            |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) |           |           |           |           |          |         |            |            |            |            |            |      |            |
| 事業年度中の変動額合計             | -         | -         | -         | -         | -        | -       | 4,100,000  | △853,057   | 3,246,942  | △306       | 3,246,636  |      |            |
| 2019年3月31日高             | 1,336,936 | 1,644,666 | 1,644,666 | 334,234   | 4,304    | 810,000 | 32,315,000 | 5,445,998  | 38,909,536 | △3,327,258 | 38,583,881 |      |            |

|                         | 評 価 ・ 換 算 差 額 等  |                | 純資産合計      |
|-------------------------|------------------|----------------|------------|
|                         | その他有価証券<br>評価差額金 | 評価・換算差額等<br>合計 |            |
| 2018年4月1日高              | 891,743          | 891,743        | 36,208,988 |
| 事業年度中の変動額               |                  |                |            |
| 別途積立金の積立                |                  |                | -          |
| 剰余金の配当                  |                  |                | △1,350,292 |
| 当期純利益                   |                  |                | 4,597,235  |
| 自己株式の取得                 |                  |                | △306       |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) | △187,946         | △187,946       | △187,946   |
| 事業年度中の変動額合計             | △187,946         | △187,946       | 3,058,690  |
| 2019年3月31日高             | 703,797          | 703,797        | 39,267,678 |

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの 事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法  
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、  
売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの 移動平均法による原価法

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品 総平均法による原価法 (貸借対照表価額につ  
いては収益性の低下に基づく簿価切下げの方  
法により算定)

製品及び仕掛品

めっき用化学品 総平均法による原価法 (貸借対照表価額につ  
いては収益性の低下に基づく簿価切下げの方  
法により算定)

表面処理用機械 個別法による原価法 (貸借対照表価額につ  
いては収益性の低下に基づく簿価切下げの方  
法により算定)

原材料及び貯蔵品 総平均法による原価法 (貸借対照表価額につ  
いては収益性の低下に基づく簿価切下げの方  
法により算定)

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建 物 15～50年

機械装置 5～ 8年

工具器具備品 4～10年

- (2) 無形固定資産  
定額法を採用しております。  
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
- (3) リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金  
債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金  
従業員に対する賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。
- (3) 役員賞与引当金  
役員賞与の支給に備えるため、当事業年度における支給見込額を計上しております。
- (4) 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。なお、当事業年度末における年金資産が退職給付債務見込額を超過しているため、その超過額を前払年金費用として、投資その他の資産の「その他」に含めて計上しております。

- (5) 役員退職慰労引当金 役員退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく当事業年度末要支給見積額を計上しております。

#### 4. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

- (1) 退職給付に係る会計処理  
退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。
- (2) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建金銭債権債務は事業年度の末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- (3) 消費税等の会計処理  
税抜方式によっております。

#### (表示方法の変更に関する注記)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計に関する注記を変更しております。

#### (貸借対照表に関する注記)

##### 1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

|                |                    |
|----------------|--------------------|
| (1) 担保に供している資産 |                    |
| 建物             | 1,883,659千円        |
| 土地             | 47,200千円           |
| 計              | <u>1,930,859千円</u> |
| (2) 担保に係る債務    |                    |
| 短期借入金          | 400,000千円          |
| 計              | <u>400,000千円</u>   |

2. 有形固定資産の減価償却累計額 13,359,802千円

### 3. 保証債務

以下の関係会社の金融機関からの借入債務に対し、保証を行っております。

|             |           |
|-------------|-----------|
| ウエムラ・インドネシア | 110,990千円 |
|-------------|-----------|

### 4. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

|        |             |
|--------|-------------|
| 短期金銭債権 | 1,658,638千円 |
| 長期金銭債権 | 105,440千円   |

### 5. 期末日満期手形等

期末日満期手形等の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理をしております。なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等が期末残高に含まれております。

|        |           |
|--------|-----------|
| 受取手形   | 429,702千円 |
| 電子記録債権 | 285,834千円 |

### (損益計算書に関する注記)

#### 1. 関係会社との取引高

|            |             |
|------------|-------------|
| 営業取引による取引高 |             |
| 売上高        | 6,951,205千円 |
| 仕入高        | 100,331千円   |
| 営業取引以外の取引高 | 3,422,541千円 |

#### 2. 関係会社貸倒損失

関係会社貸倒損失は、ウエムラ・インドネシアに対する貸付金の債権放棄を行ったものであります。

#### 3. 関係会社株式評価損

関係会社株式評価損は、ウエムラ・インドネシアの株式に対して330,360千円の減損処理を行ったものであります。

### (株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度の末日における自己株式の種類及び数

|      |          |
|------|----------|
| 普通株式 | 876,129株 |
|------|----------|

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

|                |              |
|----------------|--------------|
| 繰延税金資産         |              |
| 未払事業税          | 55,371千円     |
| 賞与引当金          | 46,811千円     |
| 棚卸資産           | 5,196千円      |
| 未払費用           | 24,106千円     |
| 投資有価証券及び関係会社株式 | 965,929千円    |
| 役員退職慰労引当金      | 61,171千円     |
| 有形固定資産         | 198,198千円    |
| その他            | 30,182千円     |
| 繰延税金資産小計       | 1,386,967千円  |
| 評価性引当額         | △1,044,095千円 |
| 繰延税金資産合計       | 342,872千円    |
| 繰延税金負債         |              |
| 前払年金費用         | △30,838千円    |
| その他有価証券評価差額金   | △310,612千円   |
| その他            | △2,222千円     |
| 繰延税金負債合計       | △343,672千円   |
| 繰延税金負債の純額      | △800千円       |

(関連当事者との取引に関する注記)

1. 役員及び個人主要株主等

| 種 類                       | 会社名称             | 住 所           | 資本金は<br>又出資金<br>(千円) | 事業の<br>内容<br>は職業 | 議決権等<br>の所有<br>(被所有)<br>割合 | 関 係 内 容    |              | 取引の内容               | 取引金額<br>(千円) | 科 目  | 期末残高<br>(千円) |
|---------------------------|------------------|---------------|----------------------|------------------|----------------------------|------------|--------------|---------------------|--------------|------|--------------|
|                           |                  |               |                      |                  |                            | 役員の<br>兼任等 | 事業上<br>の関係   |                     |              |      |              |
| 役員及びその近親者が議決権の半数を有している会社等 | 浪花殖産株式会社<br>(注1) | 大 阪 市<br>天王寺区 | 40,000               | 損害保険<br>代理業      | 被所有<br>直接<br>25.28%        | 兼務<br>1名   | 損害保険<br>代理取引 | 損害保険料<br>支払<br>(注2) | 97,152       | 前払費用 | 53,390       |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 当社役員上村寛也及びその近親者が議決権の100%を直接保有しております。

(注2) 市場価格を参考に決定しております。

## 2. 子会社及び関連会社等

| 種類  | 会社等の名称      | 議決権の所有割合 | 関係内容     |         | 取引の内容                                | 取引金額<br>(千円) | 科目 | 期末残高<br>(千円) |
|-----|-------------|----------|----------|---------|--------------------------------------|--------------|----|--------------|
|     |             |          | 役員の兼任等   | 事業上の関係  |                                      |              |    |              |
| 子会社 | ウエムラ・インドネシア | 99.9%    | 兼務<br>4名 | 債務保証    | 債権放棄<br>(注1)                         | 645,830      | —  | —            |
|     |             |          |          |         | 債務保証<br>(注2)                         | 110,990      | —  | —            |
| 子会社 | 株式会社サミックス   | 100.0%   | 兼務<br>4名 | 製商品の販売先 | 機械工場<br>建設予定地<br>の購入<br>(注3)<br>購入代金 | 710,000      | —  | —            |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 債権放棄は、経営不振の子会社ウエムラ・インドネシアの累積赤字改善のために親会社貸付金の返済免除を行ったものであります。取引金額のうち、425,000千円は貸倒引当金を取り崩しており、220,830千円は関係会社貸倒損失として計上しております。

(注2) ウエムラ・インドネシアの銀行借入(1,000千米ドル)について債務保証を行っておりません。なお、保証料は受領しておりません。

(注3) 近隣の取引実勢等を参考に決定しております。

### (1株当たり情報に関する注記)

|            |           |
|------------|-----------|
| 1株当たり純資産額  | 4,362円15銭 |
| 1株当たり当期純利益 | 510円70銭   |

(注)本計算書類中の記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2019年5月8日

上村工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

|                    |            |   |
|--------------------|------------|---|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 藤川 賢 | Ⓔ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 菱本恵子 | Ⓔ |

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、上村工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について監査を行った。

### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書

類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、上村工業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2019年5月8日

上村工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

|                    |            |   |
|--------------------|------------|---|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 藤川 賢 | Ⓜ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 菱本恵子 | Ⓜ |

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、上村工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第91期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記並びにその附属明細書について監査を行った。

### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2018年4月1日から2019年3月31日までの第91期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員の一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、当期の監査の方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役監査の基準に準拠し、当期の監査の方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（金融商品取引法上の財務報告に係る内部統制を含む内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2019年5月9日

上村工業株式会社 監査役会

常勤監査役 猪 瀬 伸 治 ㊞

社外監査役 亀 岡 強 ㊞

社外監査役 飯 島 亨 ㊞

以 上

## 株主総会参考書類

### 議案及び参考事項

#### 第1号議案 剰余金処分の件

##### 1. 期末配当に関する事項

第91期の期末配当につきましては、当事業年度の業績並びに今後の安定的な経営基盤の確保などを勘案いたしまして、以下のとおりといたしたいと存じます。

① 配当財産の種類

金銭といたします。

② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金150円といたしたいと存じます。

なお、この場合の配当総額は、1,350,286,650円となります。

③ 剰余金の配当が効力を生じる日

2019年6月28日といたしたいと存じます。

##### 2. その他の剰余金の処分に関する事項

内部留保金につきましては、経営体質の一層の充実を図るとともに、今後の設備の増強及び研究開発活動に活用して事業拡大に努めるため、以下のとおりといたしたいと存じます。

① 減少する剰余金の項目とその額

繰越利益剰余金 3,300,000,000円

② 増加する剰余金の項目とその額

別途積立金 3,300,000,000円

## 第2号議案 取締役8名選任の件

取締役全員（10名）は、本総会の終結の時をもって任期満了となります。つきましては、社外取締役2名を含む取締役8名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                                        | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                               | 所有する当社株式の数 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1     | うえむらひろや<br>上村寛也<br>(1956年3月2日生)                                                                                                                                                     | 1980年4月 当社入社<br>1988年2月 当社取締役大阪店長、<br>大阪営業部長<br>1991年10月 当社代表取締役専務<br>1995年6月 当社代表取締役副社長<br>1997年1月 当社代表取締役社長（現任）<br>（重要な兼職の状況）<br>台湾上村股份有限公司董事長 | 115,924株   |
|       | <p><b>【選任の理由】</b></p> <p>長年にわたり国内・海外グループ会社の経営に携わった豊富な経験と実績を有すとともに、1997年から当社代表取締役社長として経営を担っており、当社の持続的な成長及び中長期的な企業価値向上を目的として、グループ全体の監督を適切に行うことができることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。</p> |                                                                                                                                                  |            |

| 候補者番号                                                                                                                                                                        | 氏名<br>(生年月日)                  | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                              | 所有する当社株式の数 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 2                                                                                                                                                                            | はし橋 もと しげ お 雄<br>(1952年8月5日生) | 1973年3月 当社入社<br>1993年11月 当社中央研究所副所長<br>2000年12月 当社中央研究所副所長、<br>営業本部副本部長<br>2001年6月 当社取締役中央研究所副所長、<br>営業本部副本部長<br>2005年4月 当社常務取締役営業本部長<br>2005年12月 当社常務取締役営業本部長、<br>東京支社長<br>2010年10月 当社常務取締役営業本部長、<br>東京支社長、開発本部長<br>2011年1月 当社専務取締役営業本部長、<br>東京支社長、開発本部長<br>2012年1月 当社専務取締役営業本部長、<br>開発本部長（現任） | 5,800株     |
| <b>【選任の理由】</b><br>長年にわたり営業部門や開発部門を中心に当社業務に携わり、豊富な経験と実績を有すとともに、グループ会社においても会社経営に携わった経験を有しており、当社の持続的な成長及び中長期的な企業価値向上を目的として、グループ全体の監督を適切に行うことができることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。 |                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |            |

| 候補者番号                                                                                                                                               | 氏名<br>(生年月日)                              | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                       | 所有する当社株式の数 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 3                                                                                                                                                   | さかべ しげお 夫<br>阪 部 薫 夫<br>(1964年 8 月 24 日生) | 1987年 3 月 当社入社<br>2005年 4 月 当社総務部長<br>2007年 4 月 当社管理本部長、総務部長<br>2011年 4 月 当社管理本部副本部長、<br>総務部長<br>2011年 6 月 当社取締役管理本部副本部長、<br>総務部長<br>2012年 8 月 当社取締役管理本部副本部長、<br>情報本部副本部長、<br>総務部長<br>2018年10月 当社取締役管理本部長、<br>情報本部長、総務部長、<br>経営企画部長 (現任) | 600株       |
| <b>【選任の理由】</b><br>長年にわたり製造部門や営業部門、管理部門を中心に当社業務に携わり、豊富な経験と実績を有しており、当社の持続的な成長及び中長期的な企業価値向上を目的として、グループ全体の監督を適切に行うことができることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。 |                                           |                                                                                                                                                                                                                                          |            |
| 4                                                                                                                                                   | しまだ こうじ 史<br>島 田 康 史<br>(1959年12月16日生)    | 1982年 4 月 当社入社<br>2006年 4 月 当社営業本部東京営業部長<br>2011年 4 月 当社営業本部大阪営業部長、<br>大阪本店長<br>2013年 6 月 当社取締役営業本部副本部長、<br>大阪本店長、大阪営業部長<br>2014年 9 月 当社取締役製造本部長、<br>枚方工場長 (現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>株式会社サミックス 取締役社長                                         | 1,400株     |
| <b>【選任の理由】</b><br>長年にわたり営業部門や製造部門を中心に当社業務に携わり、豊富な経験と実績を有しており、当社の持続的な成長及び中長期的な企業価値向上を目的として、グループ全体の監督を適切に行うことができることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。      |                                           |                                                                                                                                                                                                                                          |            |

| 候補者<br>番号                                                                                                                                 | 氏 名<br>(生年月日)                      | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                     | 所有する当<br>社株式の数 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 5                                                                                                                                         | せき や つとむ<br>関 谷 勉<br>(1960年7月13日生) | 1986年1月 当社入社<br>2011年4月 当社営業本部東京営業部長<br>2012年1月 当社営業本部東京支社長、<br>東京営業部長<br>2013年6月 当社取締役営業本部副本部長、<br>東京支社長、東京営業部長<br>2014年9月 当社取締役営業本部副本部長、<br>東京支社長、東京営業部長、<br>大阪本店長<br>2018年4月 当社取締役営業本部副本部長、<br>東京支社長、東京営業部長<br>(現任) | 800株           |
| <b>【選任の理由】</b><br>長年にわたり営業部門を中心に当社業務に携わり、豊富な経験と実績を有しており、当社の持続的な成長及び中長期的な企業価値向上を目的として、グループ全体の監督を適切に行うことができることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。 |                                    |                                                                                                                                                                                                                        |                |

| 候補者<br>番号 | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                                                                             | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                     | 所有する当<br>社株式の数 |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 6         | <p>おお たち ひろ し<br/>大 竹 啓 之<br/>(1970年6月10日生)</p> <p>【選任の理由】<br/>長年にわたり営業部門を中心に当社業務に携わり、豊富な経験と実績を有すとともに、グループ会社においても会社経営に携わった経験を有しており、当社の持続的な成長及び中長期的な企業価値向上を目的として、グループ全体の監督を適切に行うことができることから、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。</p> | <p>1996年9月 当社入社<br/>2011年1月 上村旭光有限公司（現：上村（香港）有限公司）、COO<br/>上村旭光化工機械（深圳）有限公司（現：上村工業（深圳）有限公司）、COO<br/>2014年4月 上村（香港）有限公司、President&amp;CEO<br/>上村工業（深圳）有限公司、董事総経理、CEO<br/>2018年4月 当社営業本部副本部長、大阪本店長、大阪営業部長<br/>2018年6月 当社取締役営業本部副本部長、大阪本店長、大阪営業部長（現任）</p> | 2,200株         |
| 7         | <p>たか はし あき ひこ<br/>高 橋 章 彦<br/>(1979年12月11日生)</p> <p>【選任の理由】<br/>経営コンサルタントとして培われた企業経営に関する高い知見を有していることから、独立した立場で取締役の業務執行を監督していただくことにより、当社取締役会の機能強化に繋がるものと判断し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものであります。</p>                             | <p>2004年4月 株式会社亀岡合同総研入社<br/>2008年3月 税理士登録<br/>2008年4月 税理士法人亀岡合同総研入所<br/>2014年5月 高橋章彦税理士事務所開業代表就任（現任）<br/>2015年6月 当社社外取締役（現任）（重要な兼職の状況）<br/>高橋章彦税理士事務所 代表</p>                                                                                           | 一株             |

| 候補者番号                                                                                                                                        | 氏名<br>(生年月日)                            | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                               | 所有する当社株式の数 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 8                                                                                                                                            | あけ た よし き<br>明 田 佳 樹<br>(1979年 9月 30日生) | 2003年10月 監査法人トーマツ（現：有限責任監査法人トーマツ）入所<br>2007年 6月 公認会計士登録<br>2014年 8月 税理士登録<br>2014年 9月 有限責任監査法人トーマツ退所<br>2014年10月 明田公認会計士事務所開業<br>代表就任（現任）<br>2017年 6月 当社社外取締役（現任）<br>（重要な兼職の状況）<br>明田公認会計士事務所 代表 | 一株         |
| <b>【選任の理由】</b><br>公認会計士として会社財務・法務に精通し、会社経営を統括する見識を有していることから、独立した立場で取締役の業務執行を監督していただくことにより、当社取締役会の機能強化に繋がるものと判断し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものであります。 |                                         |                                                                                                                                                                                                  |            |

- (注)
1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
  2. 高橋章彦氏及び明田佳樹氏は、社外取締役候補者であります。
  3. 高橋章彦氏及び明田佳樹氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ており、本議案が承認可決され、両氏の再任が承認された場合は、当社は引き続き両氏を独立役員として指定する予定であります。
  4. 高橋章彦氏及び明田佳樹氏は、現在、当社の社外取締役であります。両氏の社外取締役としての在任期間は、本総会の終結の時をもって高橋章彦氏が4年、明田佳樹氏が2年となります。
  5. 会社法第427条第1項の規定により、高橋章彦氏及び明田佳樹氏との間で、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結しており、本議案が承認可決され、両氏の再任が承認された場合は、当社は当該契約を継続する予定であります。なお、当該契約に基づく責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額であります。

### 第3号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本総会の終結の時をもって任期満了により取締役を退任されます片山恵嗣氏及び小森和俊氏に対し、その在任中の功労に報いるため、当社の定める一定の基準に従い、役位ごとに定める常務取締役年額1,300千円、取締役年額1,000千円に在任期間を乗じ、その乗じた額にそれぞれ3割を上限とした功労金を付加し、片山恵嗣氏に21,600千円、小森和俊氏に17,000千円の退職慰労金を贈呈いたしたいと存じます。

また、当社は従来から将来の役員退職慰労金の支給に備え、所定の基準に基づく期末要支給見積額を役員退職慰労引当金として計上しております。

なお、具体的な贈呈の時期、方法等につきましては、取締役会にご一任願いたいと存じます。

退任取締役の略歴は次のとおりであります。

| 氏 名 |    |    |    | 略 歴     |             |
|-----|----|----|----|---------|-------------|
| かた  | やま | よし | つぐ | 2005年6月 | 当社取締役       |
| 片   | 山  | 恵  | 嗣  | 2011年1月 | 当社常務取締役（現任） |
| こ   | もり | かず | とし | 2006年6月 | 当社取締役（現任）   |
| 小   | 森  | 和  | 俊  |         |             |

以 上

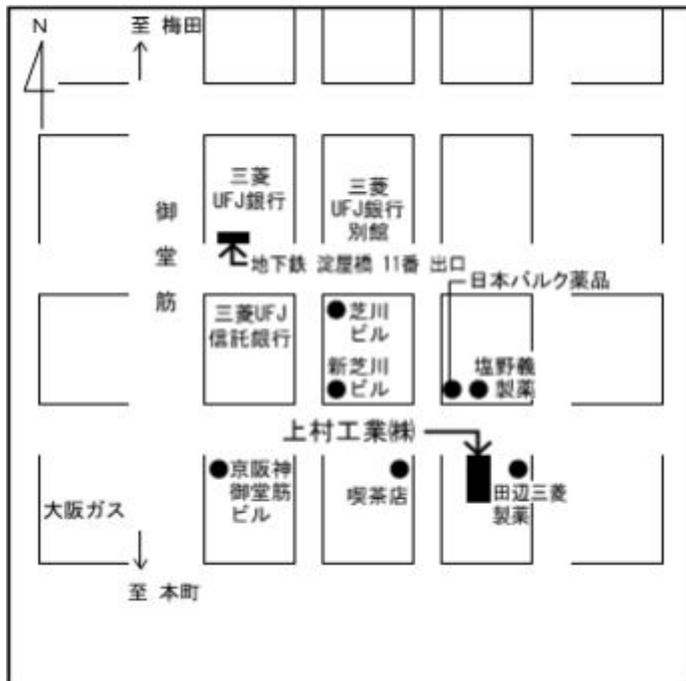






## 株主総会会場ご案内略図

会 場 大阪市中央区道修町三丁目2番6号  
上村工業株式会社 本社 8階講堂



※G20大阪サミットが6月28日、29日に開催が予定されております。当局により市内主要道路の交通規制が実施されますので、公共交通機関をご利用のうえ、時間に余裕をもってご来場賜りますようお願い申し上げます。

交通機関

地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅11番出口より徒歩約3分